

児童発達支援事業所における自己評価結果（公表）

公表：2024年2月22日

事業所名 児童デイサービスいとかの杜

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		宿題や活動の空間を分け、不就学と小学生が同時刻にいる場合も、空間を分けたり交換するなど、狭いスペースでも工夫している。	今後さらに、児童数が増えることを見込んで、事務室の移動を計画している。
	2 職員の配置数は適切である	○		適宜に休業日を設定し、職員配置が適切になるようにした。	その他人員で不足を補いつつ、求人を出している。
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がい者の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている		○	室内の出入り口には写真で用途が分かるように示し、保護者が利用するスペースには情報をまとめて閲覧できるように工夫している。	トイレはバリアフリーではないため、おむつ替えの援助が必要な児童は受け入れにくい。対象児童が入所を希望した場合には対策を講じたい。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○		静かに過ごす場所と、イライラを爆発させてもいいカームダウンスペースを用意し、適切に居場所を変えている。	宿題スペースが事務室と隣接しているため、電話や来訪に気を遣う必要がある。
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	○		業務改善のための残業が必要な時は目標時間を自ら定めて承認を得る形にし、過重労働にならないよう管理している。	会議の時間があまりとれていないため、休憩時間に話し合うことが多い。休憩時間の確保のため、業務の切り上げをお互いに声掛けする。
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		保護者向けの独自アンケートを実施し、こどもの成長、ご家族の満足度、家族支援、療育内容、宿題の項目別にご意見を徴収している。	ミーティングの時間の確保のため、通常時は児発と放デイで分けて行う。療育の、支援のねらいを確認しあうこと
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		工夫している点、課題や改善内容を細やかに公開している。	昨年はHPのみの公表だったが、今年は文書でも発信・公表したい。
	8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○	別法人の事業所との交流をかねて、忌憚のない意見をもらって振り返りを行っている。	第三者委員会の担当者との関係性を再構築を目指し、場合によっては複数名の第三者委員を依頼する。
	9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		研修予定を組んで、随時の研修にも行く人を相談の上基本申し込む姿勢でいる。	業務運営のやり方など他の事業所に聞きながら進めていきたい。
適切な支援の提供	10 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○		計画のフォーマットを随時改め、課題分析をしている。	策定会議を2名以上で行いたい。
	11 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		入所時にはアセスメントツールを使っている。	スキルリストを活用して、個別療育に生かしたい。
	12 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○		支援計画には、支援項目を5つに分け、3つは保護者や児童の願い、そして家族支援と地域支援の2つを取り入れている。	
	13 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○		児発管より支援時の助言をいただきながらモニタリング時に成長や変化をお伝えできるようにしている。	新しい計画を作成した際の支援内容の変更点を職員がすぐに目で見えるような構造可をしたい。
	14 活動プログラムの立案をチームで行っている	○		プログラム担当者とサブを交換しながら連携して立案している。	こどもの意見も取り入れる日を設けていきたい。
	15 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		音楽造形運動のプログラム以外にも、年中行事にちなんだ活動を多く取り入れている。	取り組んだことのないプログラムの立案も年間行事に取り入れたい。
	16 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	○		個別活動には課題やトレーニングという時間設定ではなく、自発的な活動の中で、支援を促す取り組み方をしているため、心情的効果	ビジョントレーニングやSSTを個別にかがやきタイムで行うが、職員配置の関係で回数が少ないのが現状。
	17 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		朝のミーティングには担当者を決めて、みんなが見れるボードに記載している。	
	18 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		気づいた点の共有は毎日自然と会話でしている。	振り返りが自然な会話で終わることもあるため、業務日誌に乗せていない情報の共有の仕方を見直したい。
19 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		記録には個別の内容を入れ、記録内容の確認をしている。	日々保護者へ送る記録と内容が同じにならないように配慮する。	

	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○		計画の見直しをする際は、必ず変更点を	
関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している		○		要請があった場合は必ず参加する
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○		不登校児童の支援にあたっては各関係機関との連携をし、時には児相にも電話で助言をいただいている。	
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている		○		該当する児童はいないが、必要があれば関係機関との連携をしていく。
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている		○		該当する児童はいないが、必要があれば協力医療機関との連携をしていく。
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		保護者や学校・保育所等が要望すれば、個別支援計画を共有をしている。	
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている		○		移行支援は今年度対象児童がいるので、相互理解できるよう情報共有をしていきたい。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		他の事業所とのビジョントレーニングの合同研修に参加した。	他の放課後等デイサービスとの交流事業、合同研修に招待されれば場合には行くようにする。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	○		放デイの児童は、児童クラブの子ども食堂へ月に1回参加している。	児童発達支援の未就学児は通園している園があるため特別行っていない。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	○		養育部会、教育委員会とのつながりで地域全体のつながりを意識している。	
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		保護者に利用時の様子をLINEで送ったり、都度家庭の様子や心配事の相談をうけては返信をするようにしている。	
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	○		親の会の実行委員として、開催場所として開放している。	ペアトレという形式ではないが、日々保護者様との心配事へ即時お答えするよう心がけている。
保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		重要事項説明の際に説明をしている。	
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○		支援内容の説明を行い、同意を得ている。	
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		親支援の観点から、モニタリング時のみならず、適宜に面談を設定するなど、行っている。	
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○		親子遠足や祭り時期に事業所を開放し、交流する機会を作っている。	
	36	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○		相談や申し入れは迅速に伝達し、対応可能かを判別の上対応している。	
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		毎月のおたよりのほか、特別号も必要に応じて発行している。	
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	○		モザイクや後ろ姿などの選択制にして、個人別に対応している。	
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		言葉以外の表情や心を寄せてくれた行動をお迎えの際にちょっとしたエピソードを入れてお伝えしている。	

	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○	近くでお祭りがあるときには、知人や友達を誘ってもよいとし、事業所開放を行っている。	不特定多数の住民を受け入れるのは危険なので、見知らぬ人は出入りしない。
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している		○		新人職員や保護者への周知の方法が、掲示だけだったので、訓練や指導の際にマニュアルについても触れるようにしたい。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている		○	避難訓練は「地震・火災・水害・不審者」を行っている。	
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している		○	入所時のアセスメントで個別に聞き取りした場合は共有している。	
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている		○		アレルギー事前聞き取り調査をしている。該当する子がいない。
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している		○		ヒヤリハットは日々の振り返りで環境構成や改善をしているが、綴りにしていなかったため、今後はその日のうちにヒヤリハットを用紙に記載し、綴っていく。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている		○	県社協の虐待研修に参加	
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している		○		マニュアルは組織的に決定しているが、必要のある子については個別支援計画の中に記載しているが、全員の計画には記載していない。

